伊那谷三六災害 50 年における地域防災力向上

取組に至る背景・事業の目的

昭和 36 年６月の「三六災害」から 50 年という節目を迎え、災害の再認識、教訓としての後世への継承、水害・土砂災害に備えた地域づくりを目指し、国の関係機関や自治体で構成する「三六災害 50 年実行委員会」が組織され、活動を展開することとなった。

当広域連合では、地域住民自らが参画し、自発的な地域防災の取り組みへと発展できるよう、この災害を題材とした演劇を上演することとし、これにより、住民自らや地域が協同して助け合う重要性の理解と、地域での防災意識の向上を図ることとした。

事　業　内　容

平成23年６月19日に飯田文化会館において実行委員会主催により開催された「三六災害 50 年シンポジウム」の前段で、三六災害を題材とし、災害の記録作文集「濁流の子」の朗読を組み入れた演劇「演劇的記録 三六災害五十年」を、演劇集団「演劇宿」と大鹿村住民の出演により上演した。これにより、災害時に自らの身を自らが守ること（自助）の重要性や、地域での協力（共助）の必要性を、教訓として訴えた。

【演劇の様子】

また、この演劇に加え、「演劇宿」劇団員出演により、災害への備えや災害が予想される際の行動等を示した映像を制作し、これらを収録したＤＶＤを作成し、小中学校の授業での防災教育や、図書館・公民館等での地域防災学習に活用いただくよう、圏域内の市町村に配布した。

【DVD を学校で上映】

事　業　効　果

「三六災害 50 年シンポジウム」の前段で三六災害を題材にした演劇を行ったことで、相乗効果となって、地域自らが地域の災害にどのように対処していったらよいのかという、「自発型の地域防災」の意識啓発ができた。

また、繰り返し視聴できるＤＶＤの作成により、教育の場や地域において継続した活用が可能となり、災害の風化を防ぎ、防災意識の維持・向上が見込まれる。

工夫・苦労した点、課題、今後の取組など

演劇制作について、リアリティーのある表現を目指し、三六災害下で繰り広げられたドキュメントを拾い上げ、また当時の学童・生徒自身の言葉で綴る災害の記録作文集「濁流の子」の朗読も組み入れ、災害の悲惨さを伝えるものとして制作した。衣装等については、当時のものを使用するよう手配を始めたが、残念ながらほとんど残っておらず諦める結果となった。

防災教育や防災意識啓発には継続的な取り組みが必要と思われ、シンポジウム参加者や演劇視聴者に啓発した「自発型の地域防災」の意識を、更に定着させることが重要である。作成したＤＶＤを定期的に活用していただくよう、圏域内市町村へ働きかけをしていきたい。

【選定のポイント】

「三六災害５０年シンポジウム」の前段で演劇を公演する事により広く注目を集めた。また、公演に参加した住民や公演を鑑賞した住民のみならずＤＶＤを視聴した小中学生や一般住民にとっても防災意識を高めるきっかけを提供しており事業の波及効果は高い。

団体名　南信州広域連合（飯田市） 連絡先　0265-53-7100	事業タイプ　ソフト事業 事 業 費　2,816,908 円 支援金額　2,500,000 円